

製品名: PEA-15 (リン酸化 Ser116) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05238

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	15kDa

抗原情報

遺伝子名	PEA15
別名	PEA15; Astrocytic phosphoprotein PEA-15; 15 kDa phosphoprotein enriched in astrocytes; Phosphoprotein enriched in diabetes; PED
遺伝子 ID	8682.0
SwissProt ID	Q15121
免疫原	抗血清は、ヒト PEA-15 の Ser116 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

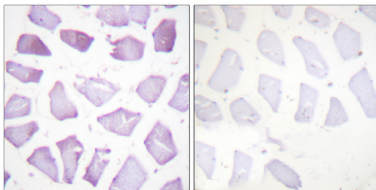
背景

アストロサイトに濃縮されたリン酸化タンパク質 15 (PEA15) ホモサピエンス この遺伝子は、アポトーシスの負の調節因子として機能するデスエフェクタードメイン含有タンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、タンパク質キナーゼ C の内因性基質です。このタンパク質は 2 型糖尿病でも過剰発現しており、グルコース取り込みにおけるインスリン抵抗性に寄与している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2014 年 7 月]、機能: Ras を介したインテグリン活性化阻害を阻害し、ERK MAP キナーゼカスケードを調節します。RPS6KA3 を細胞質に保持することでその活性を阻害します (類似性による)。TNFRSF6 および TNFRSF1A を介した CASP8 活性とアポトーシスの両方を阻害します。細胞膜上の SLC2A1 グルコーストランスポーターの含有量と、インスリン依存性の SLC2A4 の細胞内から表面への輸送の両方を制御することで、グルコース輸送を調節する。PTM: プロテインキナーゼ C およびカルシウムカルモジュリン依存性プロテインキナーゼによってリン酸化される。これらのリン酸化は、神経伝達物質またはホルモンによって調節される。類似性: 1 つの DED (デスエフェクター) ドメインを含む。細胞内局在: 微小管に局在する。サブユニット: RPS6KA3、MAPK3、および MAPK1 に結合する。PLD1 および PLD2 と一時的に相互作用する (類似性による)。CASP8 および FADD と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現する。グルコースをエネルギー源として利用する心臓、脳、筋肉、脂肪組織などの組織に最も多く存在する。グルコース産生組織では発現が低い。2 型糖尿病患者の組織では、対照群よりも高い発現レベルが認められる。、

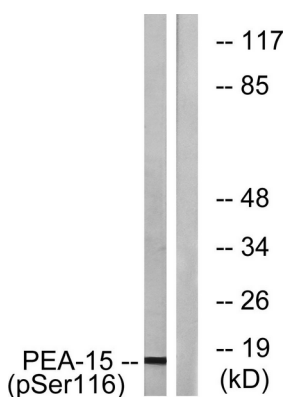
研究分野

-

画像データ



PEA-15 (リン酸化 Ser116) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



インスリン 0.01U/ML を 15 分間処理した COS7 細胞のライセートを、PEA-15 (リン酸化 Ser116) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。

p-PEA-15 (S116) 抗体を用いた COLO 3T3 のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。

